畫史

廿七

27

△篝火十七　廿七　玉鬘之并五也花鳥云以詞并歌為巻名源氏卅六ノ秋ノ
初ノイアリ又豎ノ并ト云ヽ

哥二首

△このころ世の人のことくさにうちのおほい殿の
いま姫君とことにふれつゝいひちらすを源氏の
おとゞきこしめしてともあれかくもあれ人みる
まじくてこもりゐたらん女こをなほざりのかことにても
さばかりものめかしいでゝかく人にみせ
いひつたへらるゝこそ心えぬことなれいと
きはぐしうものしたまふあまりにふかき心をも
たづねずもていでゝ心にもかなはねばかくはした
なきなるべしよろづの事もてなしからこそおだしき
ものなめれといとほしがりたまふ
つきてもきゝよくこそあるかやとききこしながらも

初風ノスヾシクフケバ秋セコガ衣ノスソノウラゾサビシキ

うきの御こゝろをこゝろやすくすなをにまさまさにまゐらせしに
あまたのまうしき事やわすれしところもんの外君たちが
しるしを見をもいとしくわかしこまりてさふらふをはしくきゝて
心ようそひされどもさわとそれおはしますのまくをみなをし
なおちてなどそれなし嬉しけれはいふゆゑよくはたらうたはる
のえまさらの時へはやうくなとらしうおとけなや
時へ御殿はなかりぬたるは風すべしくゆきさ出てきたが
うたもしうさひし義んちし時よしのひかりと
はしいさしまさくはわたしておりしまくらし
はしとふともなけりしゆえ竹ふ◯◯日比夕月
秋はいとくいわてはいし雲がくれの気色の音も

箕火必ヤリ水ノ上ニテタノモノし

やうく御それに時るほどみなつわふかわ御しこを
まくらふそても時とようひふしまうへおもひおぼ
たぐひあらんやとおもふけさ袖ふりて秋ふうし
時もひとの心ながめまはらんすをあかをはわすれわ時
なんとそおまんのうち星次ほうし歳しすこなるを
御とも中なる名をかたいふをめしてともしつき
さを結いとましし巻なる座わ水乃かとわかふ気色
こゝゆりひろちやうしたるまゆるの本北志てさふ赤
まはかく時くしうらぬほどふをきてさし志ろ
あそとも一連は御恭乃うたをいとほしし
おもしきなどな面白のわ小母のはさ海あるもりひ

カヽリ火ノ中ニ斗イヘバ北モスル所ニ名アリ [illegible]

前ニ秋ニ成トアリ又夏相違ゝ但残暑ノ時分カニヤ又立秋ノ節以前カ

古今ニ夏ナレバ宿ニフスブルカヤリ火ノイツマデ我ガ下モエニセン

煙ハ立ノボレバキエルモノ八源ノ恋ノ烟モエユクヘナクナランㇳし

あはでけふしのわするなどいゑ思ひ座てうよあて
そのなるゝちしてうちとけぬさ夜小ものの香ほゝ
きしとおがしさ山くしきいてとらうさげなかろへわ
うくおがし座しふたゞえど人さふるひてともし
はきよ夜の月なきあどいふはのひゝ里なさいそと
物もほりしくおがつるおし座とみたまふ
うし里吹入なちうふ恋此なふわさう世よな
ふくんをぬほ比どなおけまいの律までとよやふいおほ
なうでもくおしききてもえなわくわと秉こえ路ふ
女君あやしの有様座とおがれけり
ゆく湯な義空よけちてようしつき吹のたまわよ

笙ノ笛ヲ横笛ニ吹合タルニヤ又笙ノコトノ一カ但ナリモノナレバ笙ニ而し

源ヨリ以夕ノ方ヘ仰遣しコナタニハ玉ノ方ニヲルトナリ

秋ハバンシキ調し

たまふくふわとあるかゞ人のあやし思ひねらん
さるくまび妙へばをりやとて出路ふよのんしれ
ゑめんのかさふおいし路お笛の音をさうりよ袁おりき
ふわが中将此例のわうわそふきぬどもあろ奴まず
何なる路中ねよちう何なまいとまかもふなる
路か那とてまきわたまの清きうそくまなきり
なんいとげまずしきうじつき吹よとじめるまそ
ものすふとの路へまだうちほまて三人来わ妙へ里と
風の音秋よあわくわとやむける笛の音よ思いまさく
なんとて清ゝとひき出てかはしまなと小ひゞよ路
源中将はげんきまでうよいとおりし路く吹よわ

スゞ虫秋ヘコヘヨキ
ムシナリ弁コヘヨキ
アリ

松中将ぎら婦ば、ひしそだし、そうかくうは
なまし、かくは遠身のおひやうしうちにて
思ひ座りにうこぬ事すもしにきのかひたわふさ
うへわたりうるり弱緑て帰ることハ女中ねたり
ゆゑだら世たまふはぐまのちゝむとくの御はゝま
をとり和ざくをとうび花やうよ和り給し
みちとのうるまものゝ高きてわくんものし路らん

ヨルヒカル々ニトム氏
酒ノミテユヒナキスルニ
酒ニシカメヤモ
酒ニエヒタラバ玉ノイワヲ見弟衆ヘ流レモ
アランシトメシナニシトし

うしこよひいさの月なくこ給してをりわ
ゆ哉のとは思ひなまのはいそ有まのは遠ぬ
事もありゆるへどひあきことかゝまあれ
きて路ふだえをぬ中の給ひわをろりなんきのじさ

ねなまばすやこの君はちをひと遠ばめふもさて
かもとじめなまへどうけてさだりねりひようば
うれ中ねハあり給のあゞわまくして思ひすちふう
弄ふほいそかもえ志みひり律きのじょんちこと遠ど
子あよくしそあしてかさくあり給とけてもある

カヤウノウイテ二六
玉ヘ柏思乱テ心
トゞメガタケレ氏
サニヨン心ヲシヅ
メテ人ヲトヘノテ
ハサフミノ琴
ヲモ引ア乱しト
司馬相如カ琴ヲ
ヲ引テ卓文君
カ心ヲトリシカバ
夜ル文君相如カモトヘカヨヒケルタメシモ
アルニや但寔ハ不引氏可成

わざさば